

米国アラスカ州で活躍するITCのリース先運航会社

LNG開発で注目される鉱物資源豊かなアラスカ州

毎月業界のトピックをご紹介します本書ですが、3月はアラスカ州住民の生活インフラを支える弊社 ITC アエロリーシング(以下「ITC」) のリース先運航会社についてご紹介します。

■ LNG (液化天然ガス) 開発プロジェクトで注目を集めるアラスカ州

今年2月7日の日米首脳会談で米国アラスカ州産LNG の日本への輸出が議題となりました。同プロジェクトでは、日本を含む同盟国に対し、2031年以降年間2,000万トンのLNGを輸出する計画です。アラスカ州は日本の4.6倍の面積を誇る広大な土地に豊富な鉱物資源が存在しており、資源開発等により得た税収の一部は「アラスカ永久基金」を通じて、住民へ分配されます。また、「アラスカ先住民権益処理法」により、石油・ガス会社等は地域会社や村落会社と直接契約する事により採掘が可能となる仕組みで、先住民が土地や資源の権利を享受しています。こうした背景から、アラスカ州の2023年実質世帯所得（中央値）は全米6位と高水準にあります。

ITCのリース先運航会社の離陸前の様子
(米国アラスカ州)



■ アラスカ州で寡占市場を形成するITCのリース先運航会社

アラスカ州のアンカレッジ国際空港は世界4位の貨物空港で、貨物ハブとしての潜在需要が高く、地政学リスク回避の観点からも脚光を浴びています。また、米連邦政府が2025

「セスナ208Bグランドキャラバン」
(ITCのリース機体)



©Jake Dye/Peninsula Clarion

年末に完成予定の新たな貨物ターミナルを建設中で、雇用創出と経済成長が見込まれています。弊社のリース先である運航会社は、政府助成金対象の地方不可欠路線において、年間助成金獲得額でアラスカ州2位、運航地域数で同州1位を獲得しています。同リース先は、米国郵政公社向け航空事業をアラスカ州43都市に展開し、市場占有率は24都市で100%、12都市で75%以上、5都市で50%以上と同様に寡占市場を形成しています。更に、同リース先は生活必需品等の物資輸送から人員搬送、医療搬送まで多種多様な航空サービスを提供しており、地域住民の重要な交通インフラとして機能しています。

ITCは「公共性」・「社会貢献性」の高いリース事業を法人・個人の投資家様にご提供して参ります。ご関心をお持ちいただけましたら、是非ご連絡ください。